

# 資料 1

## ○ 就学前教育・保育のあり方に関する基本方針（抜粋）

| 本市の課題（第3章）   | 今後の取組の方向性（第4章）  |
|--|---|
| <p><b>【地域との連携・協働】</b></p> <p>少子化や核家族化、都市化、情報化等の経済社会の変化や、人間関係の希薄化、地域におけるつながりの希薄化などにより、地域の「教育力」が低下しているといわれています。</p> <p>乳幼児は、家庭・地域社会・就学前施設という一連の流れの中で生活しており、乳幼児が望ましい発達を遂げていくためには、それぞれにおける乳幼児の生活が充実し、全体として豊かなものになっていかなければなりません。</p> <p>しかし、家庭や地域において人や自然と関わる経験が少なくなったり、子どもにふさわしい生活時間や生活リズムがつくれなかったりするなど、子どもの生活が変化し、また、不安や悩みを抱える保護者が増加し、養育力の低下や児童虐待の増加などが指摘されています。</p> <p>こうした状況を踏まえ、学校、地域、家庭が相互に連携・協働しつつ、社会全体で子どもを育てていくことが、今後ますます重要となります。</p> <p>平成28年6月に策定した本市の教育大綱では、「未来の宝である“いこまっこ”を家庭・地域・学校・行政が連携し、地域全体で見守り育みます」と定めています。</p> <p>また、子ども・子育て支援事業計画においても、「豊かな自然の中で、次代を担う社会の宝である子どもたちの権利と利益が最大限尊重され、子どもも親も地域社会の温かい支え合いの中で健やかに成長し、子育てするなら生駒市と笑顔で言われるまちづくりをめざします」と定めています。</p> <p>このような視点から、本市が実施している子育て支援事業の一層の充実に努めるとともに、地域での子育て支援の取組を進める必要があります。</p> | <p><b>【地域との連携・協働】</b></p> <p><b>①-1 地域への情報発信・情報共有</b></p> <p>本市では従来から幼稚園を大事にしてくださっている地域のかたが多いので、今後も幼児教育の重要性を地域にアピールしていくことが重要です。また、これは保育所、こども園においても同様といえます。</p> <p>ワークショップでも、保育所、幼稚園、こども園として情報の提供を行うことや、情報交換の場づくり、情報発信が大事との声が寄せられていました。各園で実施しているさまざまな行事や取組について、地域（自治会）への回覧を行うなど積極的に地域に情報発信し、園のことを地域のかたに知ってもらうことが、地域との連携を進めていく上で極めて重要です。</p> <p><b>①-2 地域との交流</b></p> <p>ワークショップでは、地域との交流に関して、多くの意見を頂戴しました。特に本市では、高齢者と子どもたちが交流できる機会を作ることで、子どもたちを通じて地域との繋がりができ、また高齢者のかたも元気になるなど、地域のいろいろな立場や年代の人と関わりがもてると良いという声が多く寄せられました。</p> <p>こうした地域との交流を、今後、進めていくことが極めて大事であると考えます。</p> <p><b>ワークショップでの意見より（要旨）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・（生駒市には）地域貢献意識の高い高齢者や特技をお持ちの高齢者が多い。</li><li>・地域では高齢者同士の集まりはあるけれど、子どもを入れた集まりがなく、そういうものがあればいい。</li><li>・地域のいろいろな立場や年代の人との関わりがもてると良い。</li><li>・保護者も地域の人たちと知り合いになる機会があると良い。</li><li>・園の教諭・保育士が地域の人と交流できる機会があると良い。</li></ul> |

幼稚園ではこれまでも、未就園児親子登園や園庭開放を行い、子育てに関する相談も随時受けています。保育所においても同様に園庭開放を行っており、中保育園の「サンデーひろば」は10年以上にわたり実施し、地域に定着しています。このように、幼稚園、保育所ともに地域の子どもたちの遊び場、交流の場としての役割を担い、また保護者の子育て相談の場を提供しています。この取組を継続するとともに、地域の高齢者のかたとの交流を進め、自治会や地域の各種団体、更には市民自治協議会との連携も含め、地域との連携・協働を更に充実・強化していくことが重要です。